

Q「紅法師」の葉柄の赤紫色をきれいに発色させるにはどうしたらよいでしょう？

「紅法師」の葉柄の赤紫色はアントシアニンによるもので、太陽光や紫外線、低温、乾燥などのストレスにさらされると含量が増加し、発色はよくなります。そのため安定した発色には光、風通し、灌水管理が栽培上の重要ポイントになります。

栽培期間中は葉柄部分に十分光が当たるよう、広めの条間を設定してください。草丈30〜40cmでの収穫の場合には、条間20cmが目安で、株間は通常のミズナと同様の5〜7cmでかまいません。ハウス栽培では、草丈20cmを超えるステージから日中、ハウスサイドを開放し換気を行い、



タキイ研究農場
ないとう やす ゆき
内藤 泰之

Q 根深ネギの夏場の腐敗を減らすためにはどうすればよいでしょう？

品種は耐暑性にすぐれる「名月一文字」の栽培をおすすめします。「名月一文字」は耐暑性にすぐれ、暑い時期でもじっくり生育できるのが特長です。首しまりは良好で、襟部のバラケが少ないため、襟元からの水分や病原菌の侵入による腐敗が少ないです。また小葉立性草姿で風害

夏場のダメージ回復に 亜リン酸資材を葉面散布

「ホスベジ10」が断根のダメージを軽減する

「ホスベジ10」は、亜リン酸液肥にグリシンベタインを添加した新配合商品です。亜リン酸は、根の働きを活性化させ、葉を丈夫にし、花芽の充実を促すなどの各種効果が期待できる成分で、幅広い作物に使用されています。



暑い時期の収穫には「名月一文字」がおすすめ。襟部のバラケが少ないため、襟元からの水分や病原菌の侵入による腐敗が少ない。

ちょっと
気になる?!

野菜の豆知識

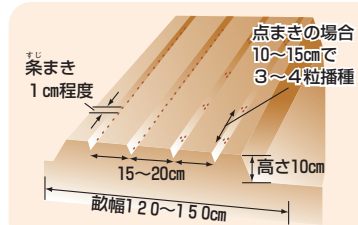
葉菜・根菜・果菜編



タキイ茨城研究農場
い井手 かず お夫



↑ 畝の外側の条で栽培すると採光と風通しの面から着色が安定しやすくなる。加えて、着色は土壌の乾燥ストレスでも促進される。

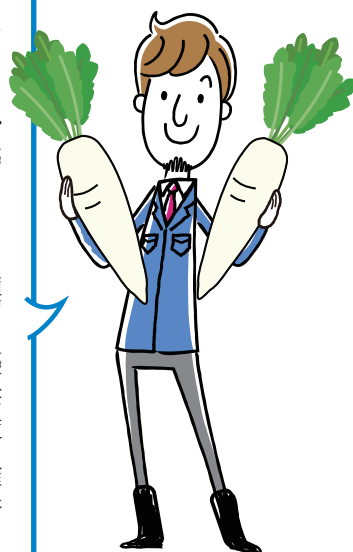


2回目は本葉2〜3枚のとき、株間5〜7cm程度に間引く

高温下で生長が鈍化する根深ネギは、高温期の追肥や土寄せがストレスとなり、腐敗の発生を助長します。秋冬どりでは、元肥3・追肥7の割合とし、高温期の追肥、土寄せは控え、秋口から行いましょう。夏秋どりで軟白長確保のために、夏場、やむを得ず土寄せする場合の注意点としては、**ストレス軽減のため一気に寄せすぎない、葉の5枚目以上首元付近まで埋めすぎない、高温時は避け朝夕の涼しい時間帯に行う**、などがあげられます。

また、事前の殺菌剤散布により葉の傷口からの病原菌の侵入を予防することや発根促進のための亜リン酸資材を葉面散布して、断根によるダメージを軽減するとよいでしょう。

Q ダイコンをしっかり太らせるコツを教えてください。肥料を効かせるタイミングは？



タキイ茨城研究農場
おかもと ゆう
岡本 祐

ダイコンをしっかり太らせるには、栽培期間を通してスムーズな生育をさせることが基本となりますが、その中でも①畑づくり、②肥培管理、③適切な栽植密度の設定がポイントとなります。

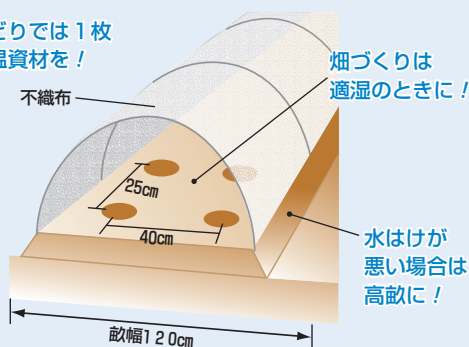
畑づくりは適湿のとき（土を軽く握ると固まり、指で軽く押すと崩れる程度）に整地することが重要です。水はけが悪い畑や粘土質のような土質が重い畑は、排水性をよくするため高畝にします。

肥培管理は全量元肥が基本ですが、初期の肥効が強いと葉が旺盛（葉勝ち）になり根の太りが悪くなります。その場合は初期の肥効を抑えるため、元肥を2〜3割程度減らし、減らした分を間引き後に追肥します。また、緩効性肥料を利用して生育後半まで肥効を保つことで、根の太りを助けるようにします。

栽植密度は単条栽培の場合は畝間60cm、2条栽培の場合は畝間120cm、条間40cmとし、株間は25cmを基準とします。極端に株間が狭いと生育にばらつきが出たり、根の太りが悪くなったりします。また風通しが悪くなり病害の発生も助長す

冬どりダイコンの畑づくりとタネまき

冬どりでは1枚保温資材を！



↑根の直径が7cm程度になったら収穫。

るため適切な栽植密度を確保しましょう。冬どりにおいては極端な寒さで肥大が緩慢になる場合は、不織布などの保温資材を1枚かけることで葉傷みを防ぎ、生育後半の肥大を促すことが可能です。

Q 秋まきでエンドウを長い期間栽培するためのポイントを教えてください。



タキイ研究農場
せの あきよし
瀬野 晃好

エンドウは根が深く広がり、根の酸素吸収量も多い作物です。このため、排水不良の畑では枯れ上がりが早くなります。高畝や深耕といった湿害対策を念頭に畑の準備をしましょう。深耕すると透水性が改善され、根の張りが充実することで、生育期間の延長にも効果が期待できます。

湿害対策

エンドウは土壌適応性がかなり広い作物の一つですが、よりよい栽培のためには排水のよい適した土壌、あるいはやや粘質の土壌が適します。砂質土壌では生育後半が弱りやすい傾向にあります。

排水のよい適した土壌

エンドウは土壌適応性がかなり広い作物の一つですが、よりよい栽培のためには排水のよい適した土壌、あるいはやや粘質の土壌が適します。砂質土壌では生育後半が弱りやすい傾向にあります。

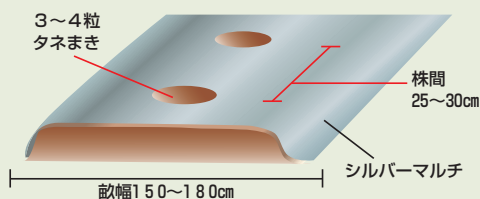
連作の回避

エンドウは豆類の中でも最も連作障害が激しく現れます。基本技術である輪作を徹底するようにしましょう。4年程度の間隔をおすすめします。間隔を短くするとだんだん作りにくくなり、すぐに枯れ上がるようになってしまいます。

肥料の種類と施肥方

元肥は有機質肥料を主体とし、深く施すように努めます。エンドウは深根性ですから深層の肥料が後半の草勢維持の鍵になります。追肥は草勢を見ながら、早めに速効性の化成肥料を適宜施します。

エンドウのタネまきと育苗



根は過湿に弱いので高畝にする。鳥害防止に播種後、不織布をベタがけしたり、防鳥テープを利用したりするとよいでしょう。



2月中旬までに畝の肩に、速効性肥料を施す。同時に株元へ、土寄せも行う。